

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成29年12月1日

開催日	平成29年11月30日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢公会堂リハーサル室	出席人数	12名
講 師	真田雅行氏	作成者	松本和俊
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争) ④		
概 要	<p>○4月 15.6 日頃、日光山より家臣が来て、君公(板倉勝静)が去る 10 日、官軍へ降伏、謝罪し、宇都宮藩戸田家へお預けになった。お供は8名、他の家臣は壬生藩へ預けられた模様との情報があり、一同愕然、愁嘆する。</p> <p>ついては、寛大な処置となるよう小子(辻七郎左衛門)に周旋するよう指示あり。国元にも様子を知らせる使者を出した。</p> <p>○小子は幕臣大久保一翁殿を訪ねて、状況を説明し、寛大な処置を受けられるよう依頼。一翁殿は、薩摩の西郷、海江田と懇意につき尽力するので、心配無用とのこと。小子は隔日訪ねてお願いし続けた。</p> <p>○この降伏の前、官軍より江戸城のほか軍艦、武器なども引渡すよう申入れがあり、徳川家の海陸軍は大沸騰、戦争に及ぶべしと決定の由。</p> <p>当方も桑名藩の手に加わる手筈をつけた。</p> <p>○ところが、君公が官軍に降伏したとの報に接し、猥りに行動することは出来なくなり、会津、桑名藩にその旨伝えた。</p> <p>○江戸城引渡しが決まったことで、幕府の有志は悉く脱走、会津を目指す。この一部が野州あたりで官軍と戦い、一時宇都宮城を占拠。のち官軍に奪還されるが、この騒ぎの中で君公の行方が分からなくなる。各方面に家臣を出して探索するが、行方は分からない。</p> <p>○15、6 日過ぎた頃、日光山より大楽院から将監という者が江戸へ来て言うには君公は宇都宮落城の折は同藩の案内にて在家へ避難、他の土地は不案内につき再び日光山へ戻った。その後会津藩、幕人とともに東照宮の御神体を戦火から護るため御神体のお供をして(この意味不明)会津へ行き、父子とも機嫌よしとのこと。</p> <p>江戸へ残っていた家臣は、将監が日光へ帰る際、同道し、会津へ行くよう将監に依頼した。</p> <p>○壬生藩に預けられた家臣は江戸へ送られ、因州、紀州邸へ預けられ、6 月中に品川より異国船に乗せられ御在所・備中松山へ引渡され、同地で謹慎となった。</p>		
次回予定	平成29年 12 月14日 10:00~12:00 於: 金沢公会堂リハーサル室 第一学習 野島浦 鈴木家文書 ①		